

事業実施報告書

法人名 NPO 法人子ども地域ネットワーク所沢

事業名	所沢 SecretBase 事業
助成事業の種類	SDG s 推進事業（豊かさ）
1. 事業の目的	<p>所沢市の1つの中学校では2017年から3年連続で自殺と殺害が続きました。また、2018年には中学校の不登校の人数の平均が1学年7名となり、このコロナ中でさらに人数が増え続け、小学校1年生の不登校のお子さんも増えてきました。</p> <p>「いつも休んでいるからわからない」学生になんてお友達が休んでいるのかを聞いても、気に掛けることができなくなっている学生の環境に危機感を覚える。2018年に学生の居場所支援を行い、2020年に不登校支援を行いながら、学校に行けている学生に対して身の回りの課題などに目を向ける取り組みをしてきました。支援の必要な児童と悩みを抱える保護者が増えてきたことで、2023年5月に支援の拡充を目的として「所沢 SecretBase」を新たに設立。</p>
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	<p>所沢市内からは20件以上の問い合わせを頂き、入間市・狭山市の教育センターからも問い合わせがありました。周辺地域にフリースクールや日中の居場所がないため、保護者が仕事を退職する世帯が多くありました。また、学校へ行くように担任の先生から連絡を受けて、子どもに学校への促しをすることで、親子関係が崩れてしまう事がほとんどでした。その流れで、親子が自律神経失調症などの精神疾患になる方が見られました。親子が外に出ることができなくなり、支援のアプローチが難しいケースも出ました。</p>

3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果

(1) 不登校支援

平日 9:00~12:00 (20 時まで利用可能) の時間で一人ひとりの安心できる居場所をサポートする。勉強が苦手なお子さんは「やりたいこと」を取り組みながらこの場所でのコミュニティを築いていく。

公園で体を動かしたり、地域の企業で職場体験、野外活動でボランティアや自立に向けての社会経験で電車の乗換や買い物などの体験ができるように支援する。

悩みを抱える保護者のネットワークを支援するため、保護者のカウンセリングを行いながら、子育てに不安を抱える保護者に子育ての知識などを学べる研修機会を提供する。

(2) 学生の居場所

16:00~20:00 は、小中高大学生が自由に集まって、勉強や地域活動をするための会議や準備など、学生の活動拠点を提供する。大学生が中高生の支援、中高大学生が小学生の支援を行う関係性を作るために学生支援者側を運営がサポートしていく。

(3) 学生の活動支援

学生が抱えている課題や、地域での取り組んでみたいことなどを「企画・実行・振り返り」ができるように、様々な知識を持っている地域住民の方と企業団体と学生を結び付けて一緒に取り組めるようにしていく。社会に出ていく前に社会経験を学べる場として運営側が繋いでいく。また、学生が失敗しても立ち直れるように運営側がサポートを行っていく。

時期	内容
7月	運営会議「今年度のイベントを学生と話し合う」「進路相談会」「夏休みのイベント」について話し合う
8月	8月4日「進路相談会」運営の高校生10校38名参加 中1(5名)中2(5名)中3(5名)保護者(7名)が参加(所沢市・所沢市教育委員会後援) 夏休み勉強会6・21・22・24(4日間 84参加) ネイルワークショップ 23日 18名参加 夏祭り(ボードゲーム大会 14名参加)
9月	早稲田大学文化祭ツアー企画
10月	小手指公民館分館文化祭企画会議
11月	4日5日 早稲田祭(文化祭 参加5名) 11日小手指公民館分館文化祭 生スタッフ20名参加 来場300名
12月	17日 WINTERFESTIVAL(こばと児童館クリスマス会) 学生運営スタッフ20名 お客参加 110名(幼児32名 小1・2年16名 3・4年生11名 5・6年生6名 中学2名 高校1名 大人42名)

	<p>19日 クリスマス会 23名参加 21日 Deledda 交流 Deledda80名 所高20名 芸総 14名 Ami26名 イタリア総領事参加</p>	
<p>4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>○広報実績について 不登校支援—未来地図登録・Facebook・Instagram・HP・行政イベント・埼玉県居場所サイト登録 学生の居場所・活動支援—Facebook・Instagram・HP・社会福祉協議会居場所マップ登録・地域活動・イベントチラシを前項配布・所沢市のほっとめるでイベント呼びかけ</p> <p>不登校支援</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事業についての実施が広まり、年間の間合せが40件を超えました。 ② 所沢市が主催するイベントへの招待を受け、所沢市としても不登校支援をしていく流れの一翼として後押しができ、担当者とのやり取りが増えました。 ③ 保護者のつどいの結成と活動の後押しができました。 ④ 不登校生徒の社会的背景から見える傾向が見えてきました。その内容を所沢市の先生方に話す機会もできました。 ⑤ 医療機関と行政機関との連携をはかりながら、同事業者とのネットワークも増えました。次のステップアップで事業者同士を繋ぎ、子どもを支援するネットワーク構築のきっかけづくり。 ⑥ 新規の支援対象のお子さんが14名増えました。 <p>学生の居場所</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 悩みを抱えている生徒の声を聞く場所になりました。 ② 勉強や息抜き、趣味で学生同士が募って自由に使える場所になりました。 ③ 小中高大学生の登録が25名を超えて、年上の学生と過ごすことで満たされ、年上の学生が役割を持つことで継続的な利用につながった。居場所になった。 ④ 学校と年齢の垣根を超えた交流が増えた。 <p>学生の活動</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 異年齢と学校の垣根を越えて一人ひとりの得意なことを活かしながら活動の企画してきました。 	

	<p>② 準備制作では、高校生中心とした完成度の高いものを求めながらも、小中学生にも手伝ってもらい、自主的に動いていくコミュニティーになりました。</p> <p>③ 当日のお手伝い参加では不登校生徒も参加することができ、学校へ行っている学生との接点や、やりがいを見つけられる機会になりました。</p> <p>④ 進路相談会では、受験に不安を抱えている学生が Base へ来るようになり、学生同士の繋がりのおかげになりました。保護者の話を高校生が聞くことで、高校生目線での思春期の難しさや、受験制度についてお伝えする機会になりました。</p> <p>⑤ 夏休みの取り組みでは、高校生と大学生が取り組んでみたいことを自由に企画し、実行にうつしました。勉強会はとても人気で、中高生が4日間通ってくれました。ネイルでは専門的な話と手入れの仕方について学び、小中学生も真剣なまなざしで取り組みました。</p> <p>⑥ 小手指公民館分館文化祭では、2日間で300名を超える来場で、どのブースも暇な時間が取れないくらい盛況でした。バルーンアートやswitchを使った体験では、何度も足を運んでくれる方が多く、スタッフもお客さんも満足できる内容でした。</p> <p>⑦ 早稲田大学生徒が文化祭の案内を企画し、大学の案内やブースのお手伝いをする機会を作ってくれました。大学を身近に感じられる機会となりました。</p> <p>⑧ WINTERFESTIVAL では幼児さんから大人まで家族で楽しんでもらえる機会が作れました。Switchが好評で列ができるほどでした。また、クリスマスの飾りも喜んでもらい、お世話になった児童館へ風船の飾りの寄付をしました。</p> <p>⑨ クリスマス会ではビンゴ大会やゲーム大会、今年の振り返りをしながら Base 内の交流を行いました。異年齢での関りを感じさせないフラットな関係で小中高大学生が参加しました。</p> <p>⑩ Deledda 交流では、イタリア総領事館の挨拶から始まり、来年度は所沢で過ごせるように。そしてジェノヴァ市での短期留学を後押しできるようにと応援のお言葉を頂きました。各生徒が歌やダンス、レクリエーションを用意して披露しながら90分間の交流を行いました。飛行機の式典でも市長の挨拶や芸術総合高校の生徒が飛行機を飛ばして「繋ぐ」メッセージを残し、イタリアでの式典で歓声と拍手が送られました。所沢市とイタリアを結ぶ大きなきっかけとなりました。</p>
5. 費用面での工夫	<p>イベントでの収益も考え持続できるように考えました。</p> <p>また、人件費を削減し活動が充実するように予算の調整を行う事で、利用者の満足を得ることに繋がりました。</p>

	<p>地元の企業に寄付金を募りましたが、認知度も低く今後も継続して挨拶をしていく必要がありました。</p>
6. 地域社会への還元について	<p>行政システムと同じ取り組みをしている事業所や団体がないため、気軽に相談できる窓口として、不登校支援に繋がりました。保護者の離職や休職を抑えることや、親子の時間をそれぞれもてるようなリフレッシュの時間を提供することに繋がり、考え方が前向きになる世帯が多くありました。</p> <p>学生が地域でイベントを行う事で、「同じように取り組みをさせてあげたい」という声を父母や祖父母から頂くことができました。また、「高校生がここまでできるとは、すごいですね」と言うお声も地域の大人から頂き、学生に注目していただく機会となりました。</p> <p>学校へ行けている学生の中には、家庭の悩みを抱えている子もいて、相談してくれる高校生がいました。話を聞いてくれる大人や少し年上のお兄さんお姉さんには相談しやすい居場所として、その人の人生を応援する場所になりました。</p> <p>高い教材のシェアや進路の相談、物事の考え方なども無料で行えることは、学生にとって頼れる場所になってきました。</p> <p>以上の資源や環境、サービスをいつでも気軽に活用できる場所があることで、困ったときの相談場所としていろいろな方が集まれる場所になればと考えています。</p>
7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	<p>人件費を確保できるように、寄付金・助成金・行政委託などを検討しながら事業の質を高めるとともにイベント保証の拡大、関係機関を広げていく事でサービスの案内や紹介がスムーズに行っていけるようにしていきます。</p> <p>また、老若男女問わず幅広い出会いがあるこの場所で、新しい事業の発掘・発展の支援に繋げていけるようにしていきます。</p> <p>Deledda 高校が所沢市で勉強するために来る予定になっているため、所沢市の学生との交流を深めながら、イタリアへの留学に繋げていける機会をつくっていきます。また 2026 年のイタリア冬季オリンピックでは、学生がイタリアに行って交流ができるきっかけをつくっていきます。</p>

事業収支計算書

法人名 NPO法人子ども地域ネットワーク所沢

1 収入の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
県助成希望額	500,000	500,000	0	
自己資金	110,000	47,263	-62,737	
事業実施による収入等	90,560	108,950	18,390	
その他			0	
合計	700,560	656,213	-44,347	

2 支出の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
会場費	60,000	41,140	-18,860	
通信運搬費	1,560	850	-710	
旅費交通費	34,500	23,580	-10,920	
消耗品費	429,500	539,643	110,143	
備品費	82,000	0	-82,000	
委託費	42,000	0	-42,000	
謝金	30,000	30,000	0	
人件費	21,000	21,000	0	
その他	0	0	0	
合計	700,560	656,213	-44,347	